



公園の緑に高さを合わせた2階リビング。樹木のスケール感を取り込む縦方向に強調された吹き抜け。住宅スケールを超えた吹き抜けを室内とベランダにそれぞれ持つことで、外部環境との中間領域として機能している。



2階ベランダ。高さ7m、奥行き3.6mの開放的かつ奥行きのある半屋外空間。



個室1から奥庭を見る。2階ベランダのルーバー床越しに柔らかい光が漏れる。



奥庭。縦に連続した庭とベランダを、屋外階段がつなぎ、外部環境を積極的に取り入れる動線計画になっている。

公園に暮らす家

1170年の歴史を持つ弓弦羽神社の参道入口にもなっている、地域住民に親しまれた公園に面した住宅である。外周には緑豊かな大木が配され、四季の移ろいが感じられる花々が美しく咲き誇る。この公園と共に暮らす生活をイメージした。

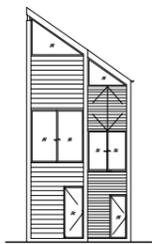
敷地は公園前から道路を挟んだ南側に位置している、間口5m奥行17mという鰻の寝床形状。公園の緑を室内に取り込むため、狭い間口をあえて縦長に分割したプランとした。西側に水回りや階段を集約することで、東側に公園から奥庭まで抜けるフリーな筒状の空間を確保し、さらに分割したボリュームを南北にずらすことで、アプローチ空間とテラスが生まれた。テラスは奥庭に面したプライベートな空間となり、この空間により南側からの日照や通風を確保している。公園には常緑樹の大木が多く、地面高さでは水平方向の開放感が感じられる一方、数メートル上がった高さでは垂直方向の緑のボリューム感やスケール感が大きく感じられるというふうに、高さによって大きく環境が変化する状況にある。そのような公園の開放感や、樹木の伸びやかさに対して、各レベルで立体的に対応しながら、公園の一部であるかのように感じられる住空間を目指した。

水平方向では、細長い敷地に対して少しずらしながら配置した2つのボリュームが公園との距離感を調整しつつ、前庭と奥庭の緑や視線の抜けがキッチンやリビングなどの住空間と混ざり合いながら、庭と公園の連続した開放感をもたらしている。垂直方向では、公園側のリビング吹き抜けや奥庭に面したベランダ吹き抜け、2、3階の床スラブのずれなど、積極的に視線の抜けをつくり、外部開口部と合わせて住宅内の視線の抜けと公園や庭への視線の抜けが混在した状態をつくった。また、公園の大木が最も美しく見えるレベルをアイレベルに合わせることで、緑が直接視界に飛び込んでくるような空間となった。

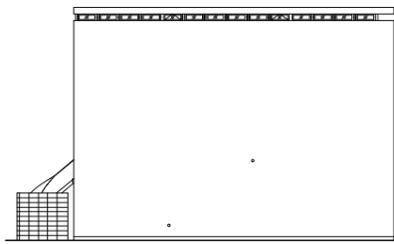
水平方向にも垂直方向にも少しのずれと大きな抜けを展開し、上下階や屋内外を伸びやかに繋げつつ、立体的に公園の環境を取り込むことで、公園に暮らすような住空間を形成している。



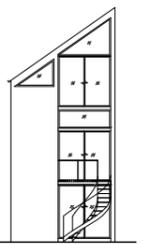
配置図兼地図 縮尺1:2000



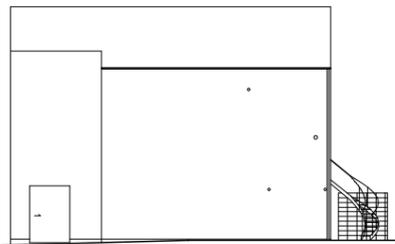
北立面図 1/300



東立面図 1/300



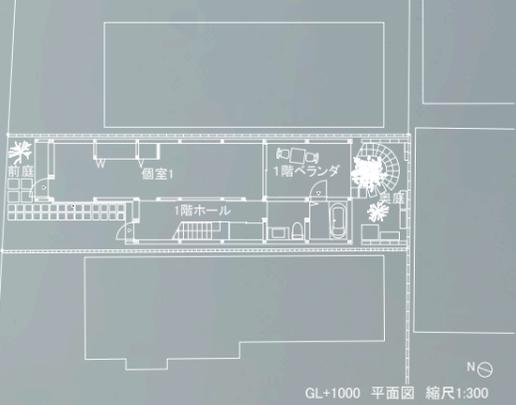
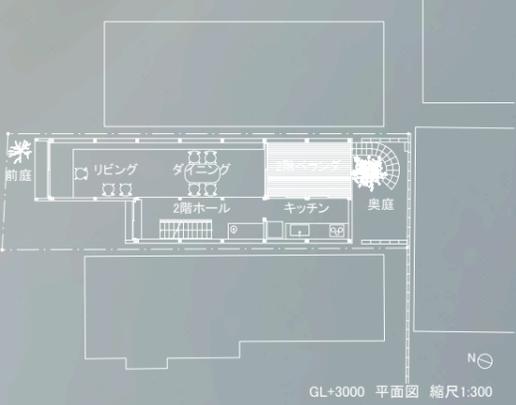
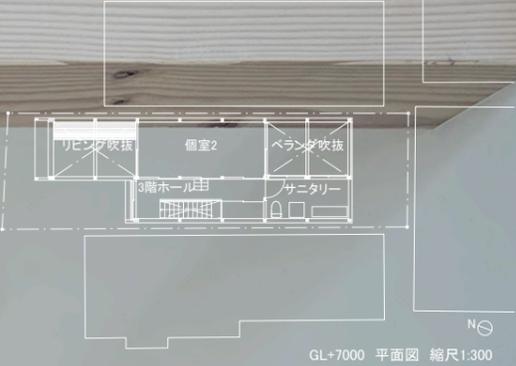
南立面図 1/300



西立面図 1/300

建物概要

- ・建物用途:専用住宅
- ・階数:3
- ・建物の高さ:9,967mm
- ・面積表:1階床面積:43.69㎡
2階床面積:43.69㎡
3階床面積:30.19㎡
延床面積:117.57㎡
建築面積:51.05㎡
- ・構造種別:木造在来工法





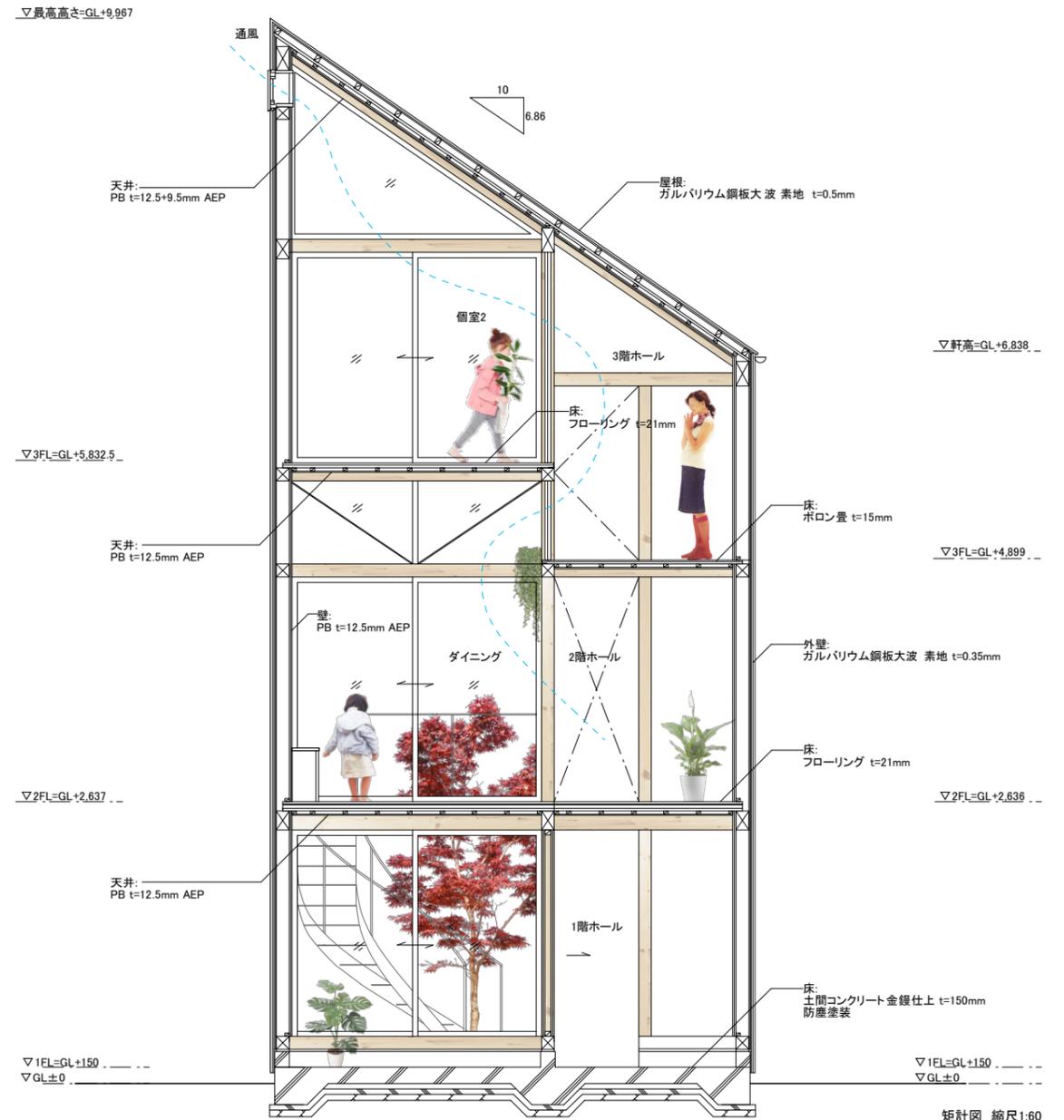
リビング吹抜よりベランダ方向を見る。床のずれを生かして合成梁の梁せいを確保し、120角の柱梁で軽やかな構造体を構成している。水平方向と垂直方向の抜けが同時に現れる空間。



南側ベランダに面したキッチン。窓を開けると半屋外空間が拡張し、一体的に使用することが可能となる。



床が段違いにずれることで、最頂部に設けた開口部により、建物全体で立体的に上方への通風、採光、視線の抜けを確保している。

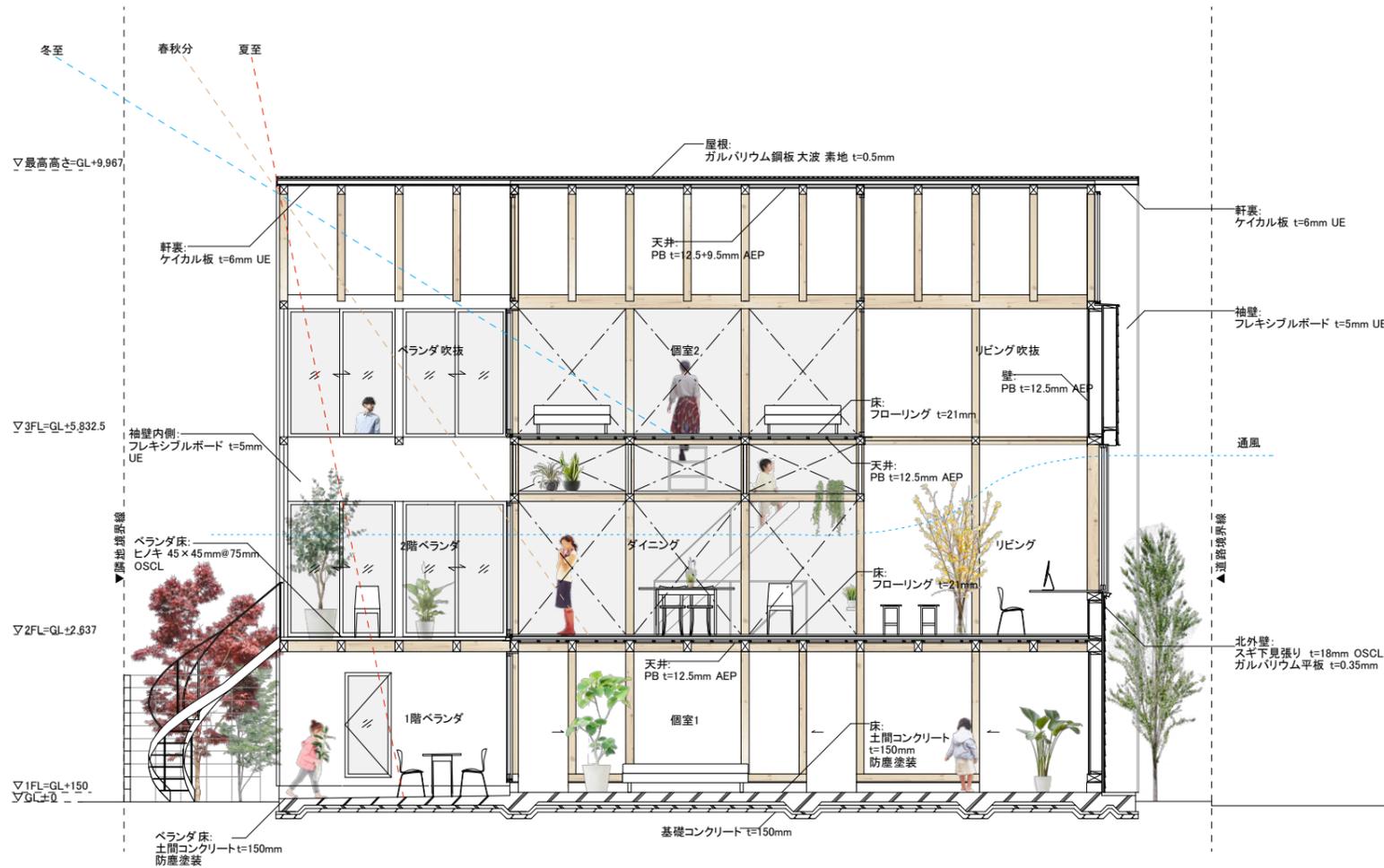




北側外観。長手方向にボリュームを2分割し、その片側に設備類を寄せることで、視線が抜ける空間を確保するとともに、独特な縦長プロポーションが現れている。



前面道路西側から公園と北側外観を見る。周囲の住宅は前面道路いっぱいまでの配置と駐車スペース分をセットバックした配置が混在しており、その中間的な建ち方をしている。



断面図 縮尺1:100